

専門研究

特別活動 専門研究部

研究主題

友達のよさを見つけ、自分のよさにも気づく
児童の育成
～自己肯定感を上げる特別活動～

北秋津小学校

高橋佐知江

柳瀬小学校

井上 海

指導者 玉川大学

准教授 川本 和孝

担当指導主事

和田 里恵

特別活動 専門研究員の研究によせて

玉川大学 TAP センター准教授 川本 和孝

現代社会は急速に変化しており、そのスピードは加速的に進んできているが、多岐にわたる技術革新の影響により、日常生活や仕事の在り方も大きく変わりつつある。例えば、AIやロボット技術の発展、デジタル化の普及は、日常生活から教育、労働市場に至るまで、多方面に影響を与えている。このような変化の中で、従来の教育システムだけで変化に適応する力を育むには、限界に達してきているのではないか。そのため、知識を得るだけでなく、柔軟に思考し、他者と協力しながら新たな課題を解決する能力が求められてきている中で、特別活動の重要性をより一層感じているところである。

特別活動は、教科の学習だけでは得られない実践的な経験を提供し、個々の自主性や協調性を養う場となる。多様な活動を通じて、社会で求められるコミュニケーション力や問題解決力を身につけることや、多文化共生やリーダーシップ、社会的責任感を学ぶ場でもあり、「変化に対応できる力」を強化する重要な役割を果たしている。そして、そうした「変化に対応できる力」の基盤となるのが、「児童1人1人が、自身の強みや長所に気付き、それをいかしていく力」なのではないだろうか。

北秋津小学校の高橋佐知江先生と、柳瀬小学校の井上海先生は、そうした「変化に対応できる力」を育む上での基盤となる力の育成を目指し、研究授業に取り組んだ。具体的な内容としては、学級活動(2)のイ「よりよい人間関係の形成」に焦点を当て、他者のよさに気付き、それをお互いに伝え合うことによって、自身のよさに気づくと共に、自己肯定感や自己効力感を高めていく、といった内容である。それに伴い、まず課題として取り上げたことは、他者のよさに気づくための視点や観点を児童がもてるようになること、またそれを伝えるための具体的なボキャブラリーを増やすということである。おそらく「互いによさを伝え合う」ということは、おそらくどの教室でもやっていることだと思うのだが、その場合のほとんどが、「自身が既に知っていることや気づいていること」を、列挙するだけにとどまってしまう、新しい「よさや強み」の発見に繋がっていないことがほとんどである。そのため、「よさや強み」を見取るための視点や観点の習得とそれを伝えるためのボキャブラリーの習得の2観点を、指導プロセスの中核として取り上げたのである。

実際の授業においては、本当に素敵な場面が見受けられた。特に、5年生の授業で、「〇〇さんは自身のことを、ポンコツだと言うけれど、それは違う。いつも、泣いている人や悲しんでいる人の隣で寄り添ってくれて、必ず最後まで隣にいてくれる。そして、その人を笑わすために、自身の失敗談や笑い話をしてくれる。その、『人を笑顔にするための話』を切り取って、自身のことをポンコツと言うことはやめて欲しい。あなたは誰よりも優しい人なのだから。」という話をしていたことには胸を打たれた。また、3年生の授業でも、字を読むことが苦手な児童が、いつも助けてくれている友だちに対し、「私は〇〇さんがいなかったら、学校に来られていないと思う。いつも助けてくれてありがとう。どうやって言えばいいのか分からないけれど、私は〇〇さんのことが大好き(その後、座席を立ててその子にハグをする)。」といった場面があった。このような場面が教室の至る所で見られていた中で、共通していたことは全員が本当に素敵な表情をしていたことである。そして、「はい、伝え合いの時間は終了です。」と教師が伝えた時、いずれの教室でも「え～、まだ伝えたい!」という声が上がっていたことも、印象的な場面であった。「自身が相手によさを伝えたことによって、相手が喜んでくれる。だから、もっと伝えたい」という意識の変容が及ぼす、人間関係構築の変容が、今回の研究授業の大きな成果であると感じたところである。

今回の研究によって得た成果を、ぜひ今後の未来に向けた「変化に対応できる力」の育成に、役立てていただきたいと思いますと考えている。

I 研究主題

「友達のよさを見つけ、自分のよさにも気づく児童の育成～自己肯定感を上げる特別活動～」

II 研究主題について

学校は、児童や教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会である。その社会の中で児童は、様々な人と関わりながら学び、その学びを通して自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることの実感をもつことができる。そのため、学校教育では、互いに認め合い思いやることのできる心や、協力し合ってよりよい生活を築いていくことのできる豊かな人間関係を育むことが重要であると考え。そうした意味で、よりよい人間関係形成を一つの目標として掲げている特別活動の果たす役割はとても大きいと言える。

本研究を通して育てたい児童像は、以下の通りである。

- ・友達のマイナスの面ではなく、プラスの面を見ることができる。
- ・自分のよさを分析し、自分のよさに気づくことができる。
- ・長所をさらに伸ばしていこうとする意欲を引き出す。
- ・自分に自信がもてるような考え方を身につけることができる。

本研究では、特別活動の学級活動（2）に焦点を当てた。現代の多くの児童は、自分の長所もわからないし、将来の夢もはっきりしない。「あいまいな自己」をもつ児童が増えている状況で自分に自信がない児童も増えている。しかし、どんな児童も成長したいという気持ちをもっている。毎日の生活の中で感じる「もっとできるようになりたい」や「こんなふうになりたい」という思いをもっている。そこで、児童が友達のよさを見つけていく中で、自分自身のよさにも気づき、「自分のことを好きになれる」児童を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

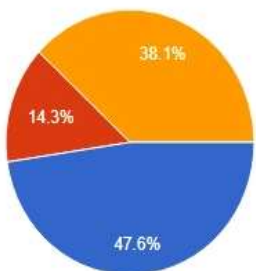
児童の自己肯定感を上げる手立てとして、「児童のよさ」を自他共に認識できるように自分のよさを分析・可視化できるような自己成長力分析シートやリーダーシップシートなどを活用した。また、そのシートを見せ合いながら話し合うことで、自分自身のよさに気づきやすくなる活動を取り入れた。この活動を繰り返し実践することで、一人一人の自己肯定感を上げることにつなげていきたい。

III 研究の内容と方法

- 1 仮説①「学級活動（2）の意思決定と実践との積み重ねを自分で評価し可視化できれば、自己を見つめ直し、友達と支え合いながら自己肯定感を高めていけるだろう。」
＜手立て①＞自分のよさを分析することによって、自分の短所と長所を知り、友達からの評価やアドバイスを受け入れやすくする。
＜手立て②＞長所をより伸ばしていこうという視点を育てる。
- 2 仮説②「自分を見つめて自己の特性を理解し、よいところを伸ばす取り組みを通して、友達から認められる経験を繰り返せば、自他のよさに気づき自己肯定感が上がるであろう。」
＜手立て①＞自分のよさを分析・可視化できるようにリーダーシップシートを活用する。
＜手立て②＞友達にもリーダーシップシートを見てもらうことにより、他者から見た自分のよさにも気づけるようにする。その後、分析・実践・振り返りの活動を繰り返す。

IV 実践事例

- 1 柳瀬小学校による実践事例（第5学年）
 - (1) 「自分のよさを限界突破～自分を好きになるために～」
 - (2) 展開の展望
 - ①事前の活動と児童の活動（本時に至るまでの活動の流れ）

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿															
<p>○自己肯定感に関するアンケートに答える。(Google フォーム) 自分のことが好きですか。 21件の回答</p>  <p>○スパイシート</p> <p>スパイシート</p> <table border="1" data-bbox="215 862 813 1209"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>名前</th> <th>友達のよさ・つよみ、感服しているところ・すごいところ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	名前	友達のよさ・つよみ、感服しているところ・すごいところ	1			2			3			4			<p>自分の正直な気持ちで答える。</p> <p>● はい ● いいえ ● わかりません</p> <p>＜実態把握＞ Google フォームを使うことで簡単にアンケートがとれ、すぐに児童に提示することができる。</p> <p>＜友達のよさを見つける＞ 友達の悪いところではなく、よさを見つけられる視点を増やしていく。帰りの会で「ナイス」の活動(互いの褒め合い活動)を行い、友達が見つけた友達のよさをメモしたり、自分で見つけたよさを見つけてメモしたりする。</p>	<p>「自己肯定感」という言葉や自己成長力について考え、これからの活動に見通しをもとうとしている。 (態) [アンケート]</p>
番号	名前	友達のよさ・つよみ、感服しているところ・すごいところ															
1																	
2																	
3																	
4																	
<p>友達のよさに気づき、メモしていく。 帰りの会でも見つけたよさを発表していき、メモしていく。</p> <p>○リーダーシップの多様性について理解する。</p> <p>リーダーシップシート① 年 組 名前()</p> <p>○リーダーシップってどんなもの?</p> <table border="1" data-bbox="263 1680 973 1948"> <thead> <tr> <th>全体をまとめる</th> <th>先頭で引っ張る</th> <th>雰囲気をよくする</th> <th>後ろから支える</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体の流れを考え、目的や目標に向かって計画を立てることが得意</td> <td>責任感が強く、自分の考えを友達に伝えられたり、友達に気を遣えられたりでき、みんなを引っ張っていくことが得意</td> <td>クラス全体のことを考え、友達の能力を上手に引き出し、雰囲気がよくなるように働きかけるのが得意</td> <td>友達に優しい言葉をかけ、友達のよさを引き出し、支えることが得意</td> </tr> </tbody> </table> <p>→ <u>リーダーシップはみんなを引っ張っていくだけじゃない!</u></p>	全体をまとめる	先頭で引っ張る	雰囲気をよくする	後ろから支える	全体の流れを考え、目的や目標に向かって計画を立てることが得意	責任感が強く、自分の考えを友達に伝えられたり、友達に気を遣えられたりでき、みんなを引っ張っていくことが得意	クラス全体のことを考え、友達の能力を上手に引き出し、雰囲気がよくなるように働きかけるのが得意	友達に優しい言葉をかけ、友達のよさを引き出し、支えることが得意	<p>悪いところではなく、よいところをどんどんメモしていく。</p> <p>＜視点の広がり＞ 児童がリーダーシップは「前に出て、みんなを引っ張っていくもの」と思っている概念を壊し、「自分のよさ」「友達のよさ」に気づけるようにする。</p>								
全体をまとめる	先頭で引っ張る	雰囲気をよくする	後ろから支える														
全体の流れを考え、目的や目標に向かって計画を立てることが得意	責任感が強く、自分の考えを友達に伝えられたり、友達に気を遣えられたりでき、みんなを引っ張っていくことが得意	クラス全体のことを考え、友達の能力を上手に引き出し、雰囲気がよくなるように働きかけるのが得意	友達に優しい言葉をかけ、友達のよさを引き出し、支えることが得意														

○自己評価アンケート

自分の正直な気持ちを書くことを伝える。書いたことで、一人一人の自分が今もっているよさがわかることを伝える。

○自分のよさ・つよみを見つけよう！よさに数字を入れてみよう！

1（自信がない） 2（すこしある） 3（みんなと同じくらい） 4（かなり自信ある） 5（みんなより自信あります）

笑顔がすてき	みんなを引っばっていける	何事でも楽しめる	よいふんいきを作れる	アイデアを出せる
みんなを勇気づけることができる	笑わせ上手	前向きで明るい	何でも一生懸命に取り組める	みんなの意見をまとめられる
みんなのやる気を引き出せる	みんなに目標を定めることができる	自分や自分たちの問題を発見することができる	いつもれいせい	人と比べない
みんなをほげますことができる	歯倒見がよい	あきらめないで最後までやりぬく	何事も確かめてから行動する	何事にも興味をもつことができる

<手立て①>
「自分のよさ」を自己分析し、可視化できるように「リーダーシップシート」を活用した。
自分と向き合い、自分のよさについて考えられる。

自分のよさ・つよみを見つけるためによさに数字をいれていく。
1（自信がない） 2（すこしある） 3（みんなと同じくらい）
4（かなり自信ある） 5（みんなより自信あります）
という段階に応じて、自分を分析していく。

②本時の活動と児童の活動

ア題材 「自分のよさを限界突破～自分を好きになるために～」

イねらい 自らの短所と長所に気づき、6年生に向けて「自分のよさ・つよみ」を伸ばしたり、友達のよさを認め合ったりできるようにする。

ウ本時の展開

過程	児童の活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応 (・)	評価規準 (◇) 指導上の留意点 (○)	時間
つかむ	1 「リーダーシップシート」を見て、自分のよさを確認する。	◎自分のよさを知るために行ったリーダーシップシートを見てみよう ・他の人に比べてこのよさが高い気がする。 ・ここがあんまり自信がない。		5

リーダーシップシート①
第 1 編 実践 1

○リーダーシップってどんなもの？

指導者の役割	指導者の役割	指導者の役割	指導者の役割
指導者の役割とは、自分の考えを押し付けることではない。相手の考えを尊重し、自分の考えを伝えることである。	指導者の役割とは、相手の考えを尊重し、自分の考えを伝えることである。	指導者の役割とは、相手の考えを尊重し、自分の考えを伝えることである。	指導者の役割とは、相手の考えを尊重し、自分の考えを伝えることである。

○自分のよさ・つよみを見つけよう！よさに数字を入れてみよう！

強み	強み	強み	強み	強み
1	2	3	4	5

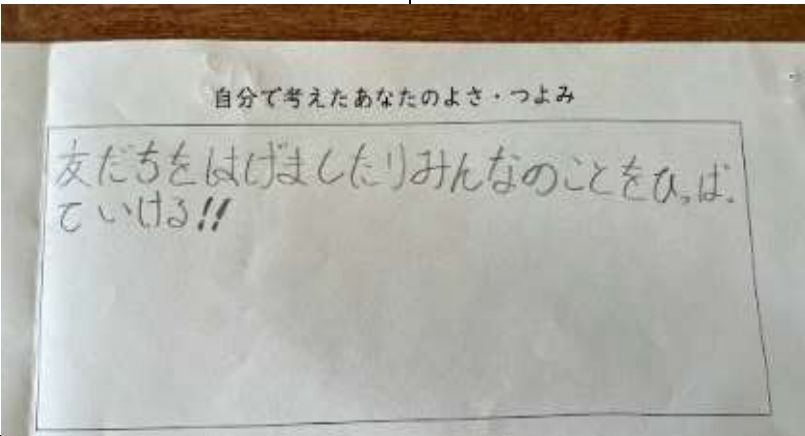
自分で考えたあなたのよさ・つよみ

友達から見たあなたのよさ・つよみ

<手立て①>
自己分析した後に自分で考える「自分のよさ・つよみ」について考えていく。
友達の意見を聞く前の自分一人で考える自己分析。

自分のよさやつよみに気づき、長所をさらに伸ばしていこう！

2 リーダーシップシートを友達に見せ、自分で特に強いよさについて話す。



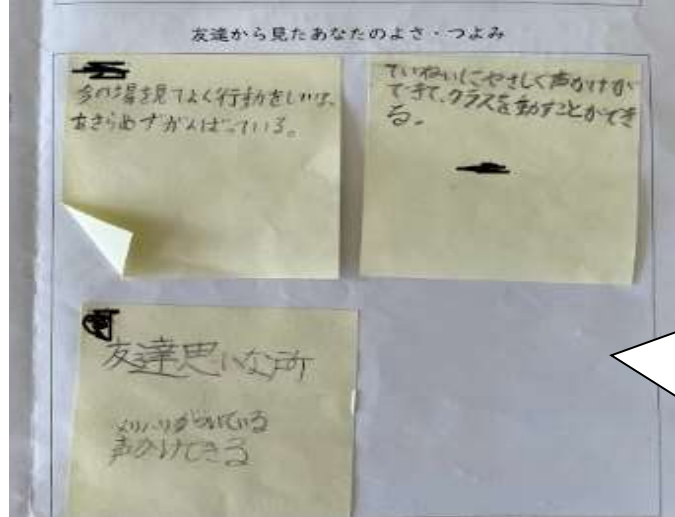
さぐる・見つける

3 その後、「友達から見たあなたのよさ」を付箋で貼ってもらう。

◎次に友達から見たあなたのよさについて意見を言ってもらいながら、付箋を貼ってもらいましょう。

◇【知】自分のよさと普段の生活がつながっていることを理解している。(観察、発言)

30



<手立て②>
「自分が思うよさ」を伝えた後に「友達から見たあなたのよさ」を付箋で貼ってもらう。そうすることで自分が考えたよさと友達が見つけたよさを比較することができる。

	<p>4 最後にグループ内で、その人のよさ素晴らしさについて考える「褒め褒めタイム」を設定し、話合いの中心の児童が1カ月間、何を意識していくか考える。</p>	<p>◎最後にグループ内で、その人のよさ素晴らしさについて考える「褒め褒めタイム」を行って、何を伸ばしていくか考えよう。(この流れを4回行う。)</p>	<p>○自分のよさを見つめ直す時間にする。 ○小グループで話し合うことで、自分では見つけられない視点からの意見をもらうことができる。</p>	
<p>決める</p>	<p>5 リーダーシップシートの裏を出し、自分がこれから伸ばしていくよさを確認し、伸ばしていくよさを決定し、書いていく。</p>	<p>◎自分と友達とで分析をして、これから伸ばしていきたい力を自己評価シートに書きましょう。 ◎今日の学習で決めた伸ばしていくよさを発表していこう。 ・笑顔がすてきなところをさらに伸ばすために、普段の会話の中で笑顔を増やす。</p>	<p>○長所をさらに伸ばしていくことが自分への自信につながることに触れる。 ◇【思】話し合ったことを生かして、自分の成長したいことを書いているか。(ワークシート) ○今日の授業の振り返りを行う。(学んだこと、気づいたことを振り返る。)</p>	<p>10</p>
	<p>5 伸ばしていくよさを発表する。</p>		<p><手立て②> 自分で1カ月間頑張る「自分のよさ」を決定する。決定した後は、廊下にシートを貼り、友達が評価をしていく。クラスの友達からたくさんのよさを伝えてもらい「見える化」することで、児童の自己肯定感が上がっていくであろうと考える。</p>	



<手立て②>
最後に友達から「友達から見たあなたのよさ」について、たくさんよさを言ってあげる。その人ががんばっているところ・すごいと思うところもたくさん伝える。言われた本人が照れてしまうぐらい言ってあげる。



<手立て②>
自分で1カ月間頑張る「自分のよさ」を決定する。決定した後は、廊下にシートを貼り、友達が評価をしていく。クラスの友達からたくさんのよさを伝えてもらい「見える化」することで、児童の自己肯定感が上がっていくであろうと考える。

2 北秋津小学校による実践事例(第3学年)

(1) 自分の「つよみ」をりかいして、これからの自分のもくひょうをきめよう。

(2) 展開の過程

①事前の活動(本時に至るまでの活動の流れ)

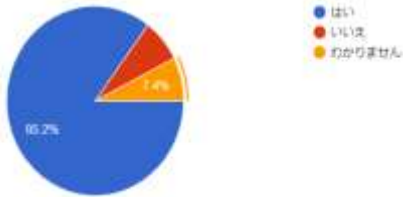
児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
○自己肯定感に関するアンケートに答える。 (Google フォーム) ○自己成長力分析アンケートに答え、自己を分析する。 ○リーダーシップについて理解する。 ○帰りの会での「今日のきらりさん」活動に取り組む。	普段の自分のことを思い出させ、正直に答えさせる。 友達の頑張っているところやよいところに目を向け認められるようにする。 全児童が発表できるように、その日の日直のよいところを必ず言うようにする。	自分を見つめ、自分の長所や得意なこと、短所や苦手なことに気づくことができる。 (知識・技能)[ワークシート、発言]



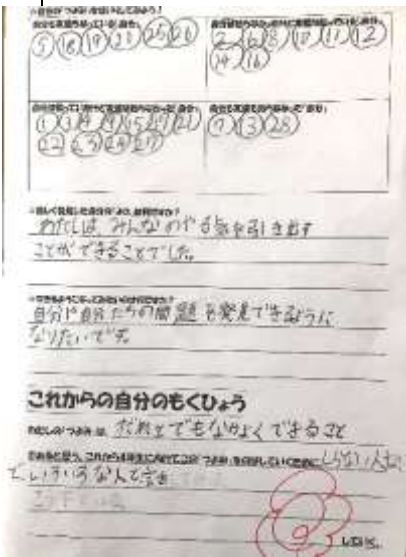
②本時の活動と児童の活動

ア題材 自分の「つよみ」を理解して、これからの自分の目標をきめよう。

イねらい 自分の長所や得意なことを学校生活でどのように生かせるか考え、集団活動を意識させながらそれぞれのリーダーシップを決定することができる。

ウ本時の展開

過程	児童の活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応 (・)	◇評価規準 →支援 ○指導上の注意点	時間	
つかむ	1 自己肯定感アンケートの結果を見る。 自分について変えたいと思うことがたくさんありますが。 27件の回答		◎「自分について変えたいと思うことがたくさんありますか」の結果は、22人の人が「はい」と答えました。この理由は、なぜだと思いますか。 ・自分に自信がないから。 (◎どうしたら、自信がつくでしょう。) ・さらに成長したいと思うから。 ◎自分のよさやつよみを知り、よさやつよみを増やしたり伸ばしたりして、自分をパワーアップさせましょう。	◎黒板にアンケート結果のグラフを掲示する。	5

<p>さぐる・見つける</p>	<p>2 自分の長所や得意なことを見つける。</p>  <p>3 友達の長所を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>【仮説②手立て2】 リーダーシップシートを友達にも見ってもらうことで、他者から見た自分のよさにも気づけるようにする。</p>	<p>◎ワークシートの自分の「つよみ」だと思ふ下の空いているスペースに自分の名前を書きましょう。</p> <p>【仮説②手立て1】 自分のよさを分析・可視化できるようにリーダーシップシートを活用する。</p> <p>◎班の友達の「つよみ」をワークシートに書きましょう。</p> 	<p>→例を黒板に貼る。 →「つよみ」の言葉の説明をする。</p> <p>◇【知・技】自他の長所や得意なこと、短所や苦手なことを理解し受け入れることができる。 (ワークシート・発言)</p>	<p>25</p>
<p>決める</p>	<p>4 自分の長所や得意なことを理解し、これからの自分の目標を決める。</p> 	<p>◎これからの自分の目標を記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑わせ上手になって、落ち込んでいる人を元気になりたい。 ・だれとでも仲良くして、友達を増やしたい。 ・いやなことがあってもクヨクヨしないで、楽しく生活したい。 <p>【仮説②手立て2】 自他の分析結果を見ながら、これから伸ばしていきたいことを決定する。</p>	<p>◎難しいものではなく、少し意識すればできることを選ぶようにする。</p> <p>◇【思】話し合ったことを生かして、学級のためにできることを具体的に書くことができる。</p>	<p>15</p>

	5 今後の流れを理解する。	◎ワークシートを掲示するので、自分の目標を意識して生活しましょう。これから1週間ごとに振り返りをしていきます。		
--	---------------	---	--	--

IV 成果と課題

1 成果

(1) 仮説①に対する成果について

- ・事前にアンケートをとることによって実態を把握することができ、児童への問題提起がしやすかった。
- ・「リーダーシップ」への見方(P4参照)を広げることで、児童の自分や友達のよいところを見る視点が変化した。
- ・普段意識していない自分のことや友達から見た自分についてのよさを分析することで、客観的に自己分析することができた。
- ・廊下に自己決定した「自分が伸ばすよさ」を掲示することで、どの児童でもそれぞれの「伸ばしたいよさ」を見ることができた。その結果、クラスの児童から嬉しい付箋を貼ってもらえるようになり、一人一人が友達のよさをより考えるようになった。
- ・短所を減らす意識ではなく、今自分が持っているよさやつよさを伸ばすことに良さを見出すことができるようになった。

(2) 仮説②に対する成果について

- ・リーダーシップシートを活用することで、よいところには、数多くの種類があることに気づき、短所と思われた部分が長所になりうることを知ることができた。
- ・友達からも自分のよいところを教えてもらうことで、自分のよいところを再確認したり、自分が気づいていなかった自分のよいところを発見したりできた。
- ・自分と友達のよさを相互に見合う活動を通して、自他のよいところに目を向けようとする気持ちが芽生えた。
- ・よいところを伸ばす活動と友達から認められる経験、自己の振り返りを繰り返し行うことで、自分に自信をもって行動できる児童が増えた。
- ・よいところを伸ばす取り組み後、友達から認められる経験をして、さらに自分のよさを伸ばしたいと振り返る児童が多かった。

(3) 授業前と授業後1カ月経った後に行ったアンケート結果より

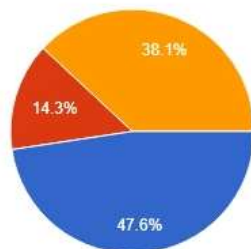
(1回目)

(2回目)

①柳瀬小学校

自分のことが好きですか。

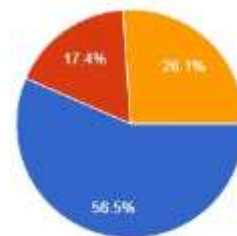
21件の回答



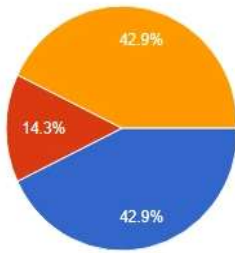
自分のことが好きですか。

23件の回答

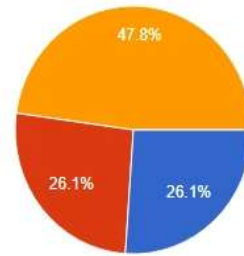
● はい
● いいえ
● わかりません



他の友達があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか。
21 件の回答

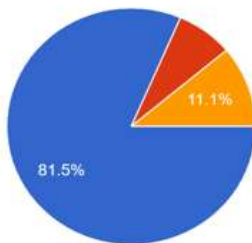


他の友達があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか。
23 件の回答

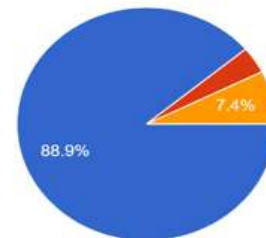


②北秋津小学校

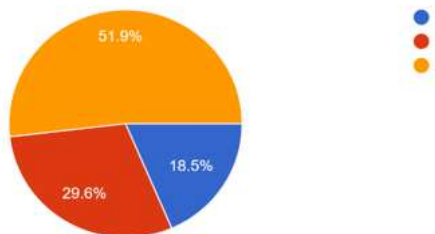
自分のことが好きですか。
27 件の回答



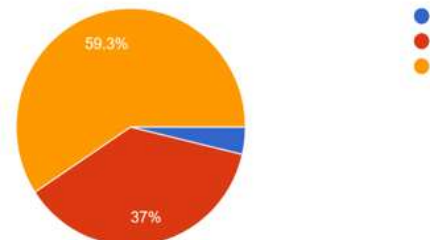
自分のことが好きですか。
27 件の回答



他の友達があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか。
27 件の回答



他の友達があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか。
27 件の回答



どちらの学級でも、授業を実施前のアンケート結果と授業から 1 カ月後のアンケート結果を比較すると、「自分のことを好き」と肯定的回答をする児童が増えている。このことから、自己肯定感が高まったことが分かる。また、「他の友達があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか。」というアンケート結果を授業前後で比較すると、「はい」と答える児童が減少し、友達から評価されていることを感じられるようになったという成果が見られる。

2 課題

- ・最初は学級活動の時間を設定して友達から褒められる経験をさせることが有効であるが、その後は、児童が自発的に自他を認めるような発言が日常的に出ることが望ましい。
- ・今回の活動を繰り返し行うことで、児童が友達のよいところを言い慣れたり、自分のよいところを言われ慣れたりすることが望ましい。また、そのためには自他のよいところを受け入れることのできる安心できる環境づくりが大切である。
- ・友達のよいところを褒め合う時に、児童が使う言葉が乏しかった。よいところを伝え合う時間を継続して行っていく必要性を感じた。

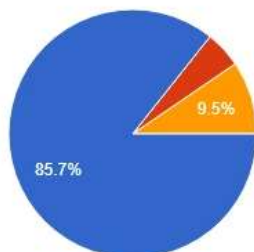
(1) 授業前と授業後 1 カ月経った後に行ったアンケート結果より
(1回目) (2回目)

● はい
● いいえ
● わかりません

①柳瀬小学校

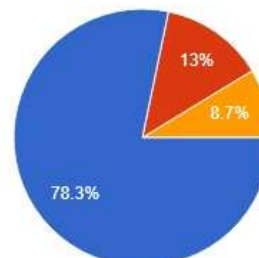
自分について変えたいと思うことがたくさんありますか。

21 件の回答



自分について変えたいと思うことがたくさんありますか。

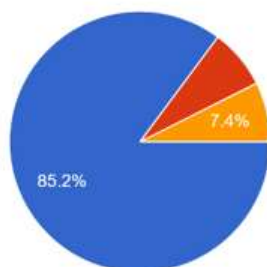
23 件の回答



②北秋津小学校

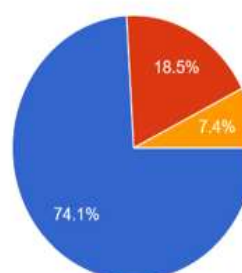
自分について変えたいと思うことがたくさんありますか。

27 件の回答



自分について変えたいと思うことがたくさんありますか。

27 件の回答



どちらの学級でも、授業実施前のアンケート結果と授業実施から 1 カ月後のアンケート結果を比較すると、「自分について変えたいと思うことがたくさんありますか。」という児童の数は減っている。しかし、7 割以上の児童は長所を伸ばすだけではなく、短所を減らしていきたいことや変わりたいところがあると思っていることがアンケート結果から読み取ることができる。長所を伸ばすというきっかけで自分に自信がついた後に、さらに長所以外の変わりたいところを伸ばしていくことが今後の課題になっていくことがわかった。

私達は、「自分のことを好きになれる」児童を育てていきたいという目標を抱き、本研究に取り組んできた。この研究をきっかけに、自分のよさ、他者のよさに気づいていける大人になってほしいと願っている。

本研究を進めるにあたり、玉川大学准教授川本和孝先生には、特別活動の役割について、また、これからの時代を見据えた児童生徒の育成について、多面的多角的視点で多くのご指導をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

V 参考文献

- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説 特別活動編」東洋館出版社
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版社
- ・特別活動の教育技術 杉田洋著 小学館
- ・埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 埼玉県教育委員会
- ・多様な他者と協働する力を育む特別活動 埼玉県連合教育研究会
- ・みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編 文溪堂
- ・特別活動 QandA 埼玉県特別活動研究会 埼玉県特別活動研究事務局
- ・子どもの自己成長力を育てる 田中博之

委託研究

E S D調査研究協議会

研究主題

「所沢市のE S D」のさらなる普及

和田小学校長

立花 真輝（委員長）

伸栄小学校教頭

溝越 由仁（副委員長）

伸栄小学校

河邊 彩

北秋津小学校主幹教諭

飯塚 光

北秋津小学校

浅野 香那

山口小学校教頭

佐藤 毅祐

山口小学校

大野 一樹

指導者 学校法人湘南学園

学園長 住田 昌治

担当指導主事

石坂 祐樹 清水 航

ESD 調査研究協議会の研究によせて

学校法人湘南学園 学園長 住田昌治

ESD が国際的に取り込まれるようになって約 20 年経ちます。日本では一早く政策に取り入れられ、学習指導要領にも盛り込まれました。しかし、日本の教育は、持続可能な社会創りを目指しているにも関わらず ESD の認知度は低く、意識的な取組も進んでいません。そんな中、長年にわたって独自の取組みをされてきた所沢市では他と比べて ESD の認知度は高く、それぞれの考えのもとで実践されている先生も多くいらっしゃいます。所沢市が、ESD 先進地として発展してくために、所沢市 ESD 調査研究協議会が中心となって、新たな挑戦を続けています。

今後、ESD 認知度 100%、意識的な取組 80% を目指して、よくある質疑を記します。

- ① SDGs を調べていたら ESD が出てきたんですが、ESD って何ですか？
☛ 「持続可能な社会を目指して行動できる人を育てるための教育です」
- ② ESD は誰を対象にしているのですか？
☛ 「立場や年齢を超えたすべての人です」
- ③ ESD っていつ誰が言い出したのですか？
☛ 「2002 年に日本が提唱し、国連で採択されました。当時は小泉首相」
- ④ ESD って SDGs とどう違うのですか？
☛ 「ESD とは、SDGs を自分ごととして捉え、問題解決につながる価値観や行動の変革を起こすための教育・学習活動です。ESD は、SDGs を達成するための手段であると同時に、SDGs を通して達成したい目標のひとつでもあります」そして、「SDGs は、世界を変えるための 17 の目標ですよね。一人一人が行動を変えれば、まだ人類の未来は救える。まずは自分が変わるということ。SDGs はそれを私たちに呼び掛けているのです」

今年度も授業を伴う ESD 研修会を計画し、北秋津小学校で開催しました。昨年度の会場校である伸栄小学校は、グランドデザインに ESD を明記、ESD マークや ESD の合言葉作成・掲示、ESD 全校集会なども行い、全校で ESD を推進しています。そして、北秋津小学校の ESD 研修会には、教職員に加えて、学校運営協議会、町内会、PTA、地域ボランティアの方などが参加されました。これは、ESD（持続可能な社会創り）は、学校だけが担うものではないということを表しています。「ESD を効果的に推進するためには、ESD の実施を学校経営方針に位置付け、校内組織を整備して学校全体として組織的に取り組むこと、ESD を適切に指導計画に位置付けること、地域や大学・企業との連携の視点を取り入れること、児童・生徒による発信と学習成果の振り返りを適切に行うことなどが重要」(ESD-j) 保護者や地域を含めた学校外との連携しながら取り組むことも確認しておきたいと思えます。

所沢 ESD は、さらなる挑戦を続け、学校が地域や企業のハブとなり、人的物的資源を共有・活用して、一人でも多くの「持続可能な社会の創り手」を育てていくことを目指して、調査研究を継続していくことが求められます。多くの学校関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

E S D 調査研究協議会

I 研究主題

「『所沢市のE S D』のさらなる普及」

II 研究主題について

E S D 調査研究協議会は、平成22年に発足し、今年で14年目を迎えている。「E S Dとは何か」という問いに常に向き合い、E S Dの視点での授業改善を目指して調査研究を行っている。昨年度は学校を会場とし、授業公開や取組紹介、グループ協議を中心とした「E S D研修会」を開催した。さらに、市内教職員へアンケート調査を行い、E S DやS D G sの認知度や取組について実態把握に努めてきた。E S Dの推進が図られている学校がある一方で、E S Dのことを知っていても、実践に生かしきれていない現状がある。

令和3年度より、湘南学園 学園長 住田昌治先生を指導者に招き、ホールスクールアプローチを意識した学校づくりの視点から研究を進めている。E S Dの視点を持った授業改善は個人差があるため、学校全体として共通認識を持ち、研究を進めることが必要である。さらに、「持続可能な社会の創り手」は学校だけでなく、地域全体で育成していくことを目指し、本研究主題を設定した。

III 研究の内容と方法

1 研究内容

E S D 研修会を通じた「E S Dのさらなる普及」

2 研究方法

- (1) E S D 研修会の実施
- (2) E S D に関するアンケート調査による分析

IV 実践

1 実践報告

回	月 日	研 究 内 容
1	5/31 (水)	委嘱状交付 研究の方向性について確認 指導者による基調講演
2	7/3 (水)	アンケート実施方法の検討 各学校の取組について確認
3	7/17 (水)	アンケート項目の決定 E S D 研修会について
4	9/4 (水)	アンケート項目及び内容の確認 ・前年度の結果報告 ・掲載内容の確認
5	10/02 (水)	E S D 研修会の詳細について ・各項目の分担と時間配分 研究紀要の作成について分担

6	10/23 (水)	E S D研修会会場校 (北秋津小学校) での現地確認 ・運営についての打合せ
11/11 (月) ~12/6 (金)		E S Dに関するアンケート実施 (①~③) ①管理職 ②教職員 ③児童生徒 (小学6年生・中学3年生)
	11/20 (水)	E S D研修会実施 (北秋津小学校) ・公開授業 (2年生 国語科) ・全体会 (取組紹介・協議・指導者講義)
7	12/25 (水)	研究紀要について ・各学校より報告 ・アンケート結果の分析
8	1/14 (水)	研究発表準備 ・発表内容の打合せ ・発表用動画の撮影
	2/7 (金) ~2/28 (金)	所沢市研究発表会においてオンデマンド発表 ・市内教職員向け研修・研修 HP (Google サイト) へ発表動画を掲載
9	2/19 (水)	1年間の振り返り・次年度への引き継ぎ事項について

上記計画の中で実践した事例を、別添資料として以下のとおり記す。

別添資料1「各校での実践」 伸栄小学校の実践
山口小学校の実践
北秋津小学校の実践

別添資料2「E S D研修会報告」

別添資料3「E S Dに関するアンケート分析結果」

V 成果と課題

1 成果

- E S D研究協議会がこれまで積み上げてきた研究内容を継承しながら、今年度は北秋津小・山口小・伸栄小(継続)の3校が、E S D教育の実践に取り組み、市内に発信できた。
- 昨年度挙げられた課題を受け、今年度は伸栄小が継続して本協議会に参加し、グランドデザインの中に「E S D推進校」と明記され、校内で様々なE S Dの取組がなされたことにより、所沢市のE S Dを牽引する推進校としての第一歩を踏み出すことができた。
- 北秋津小で行われたE S Dの授業研究会に、北秋津小学区の関係者(民生委員・愛校会・自治会役員等)が参加されたことにより、児童や教職員だけでなく保護者や地域と一緒に取り組むE S D教育の在り方を協議することができた。
- 今年度のE S D・SDGsのアンケートから、市内教職員に加えて新たに児童生徒・管理職も対象に実施し、児童生徒3100人超の回答からは、SDGsの認知(約96%)や実践(約91%)等の実態を把握することができた。管理職の回答では、これまで課題に挙げられていた学校全体でのE S Dの取組(ホールスクールアプローチ)を問う項目が設定され、今後グランドデザインや年間指導計画へのE S Dの記載等、学校全体でのE S Dの取組状況等の実態把握につなげることができた。

2 課題

- △アンケート調査から、児童生徒・教職員のSDGsやE S Dの認知度は高まっているが、昨年度同様E S D教育の授業や取組を行っていないと回答した教職員が4割超にのぼり、実践が広がっていない。普段の教育実践が実はE S Dそのものであり、教師がE S Dの視点をもって教育活動を進めることの重要性を粘り強く広げていく必要がある。
- △管理職へのアンケート調査からは、6割超が自校のグランドデザインにE S Dの記載はなく、学校全体でのE S Dの取組も昨年度同様に2割に留まっている。今後も管理職・教職員双方からホールスクールアプローチの意識高揚が求められている。
- △本協議会は発足から14年を経過しているが、市内E S D教育の推進には課題が多い。市内教職員が参加しやすい研修会(授業研究会)の開催方法や、各校の年間指導計画にE S Dを位置付けるためのE S Dカレンダー等の情報提供の在り方等も、検討が必要である。

学校教育目標
やさしく かしく つよい子

1 学校教育目標とE S Dのつながり

本校の学校教育目標は「やさしく」「かしく」「つよい子」である。それらをE S Dの視点から実現することに向けて、本年度は目指す学校像を「**しんらい**」「**えがお**」「**いきいきE S D**」とし、E S Dというキーワードを付け加えた。さらに以下3つの重点目標を定めた。

1つ目は、掲示教育の充実である。学校内で様々な掲示物を活用し、持続可能な社会づくりに必要な概念の意識付けを行っている。2つ目は、体験活動の充実である。様々な体験をする中で、E S Dの視点を常に意識しながら、五感を通して児童が自らの課題を見つけ、それを改善、解決するための能力育成を目指して教育活動が営まれている。3つ目は、食育活動の充実である。生活の基礎作りに役立つ食事について学ぶことにより、子供たちが自分自身のよりよい食生活について理解を深めるとともに、子供たちの心身の健やかな成長の促進を図っている。4つ目は、集会活動の充実である。集会を通じて、E S Dのへの興味関心を高めるとともに、E S Dを学校全体で取り組んでいこうという意識の向上を図っている。

2 伸栄小学校E S Dの取組

4つの重点目標をもとに、①学校ファーム、②栄養教諭のE S D、③授業におけるE S D、④E S D委員会、⑤P T Aとの連携、⑥ホールスクールアプローチとしてのE S Dの6つの取組を行っている。

① 学校ファームでは、各学年の学年園で野菜の栽培・収穫を行っている。また学年園で収穫した野菜を校内で販売したり、高学年は、調理実習で調理したりしている。また、冬には落ち葉掃きを行い、集めた落ち葉を活用して腐葉土づくりも行っている。

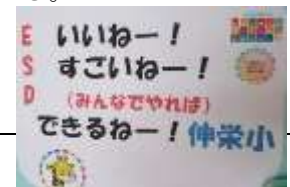
② 栄養教諭のE S Dでは、体験学習の野菜栽培と関連づけて、栄養教諭とのT.Tで食育の授業を行っている。また給食時間中の校内放送や廊下などの掲示板を活用して旬の野菜等の食育につながる様々な情報を紹介し、子供たちの興味関心を高める取組を行っている。

③ 授業におけるE S Dでは、2年生以上の全学級で、体験活動で収穫した野菜を食べる喜びを味わうとともに、様々な食に関する授業を行っている。また2年生ではビオトープの環境学習、3年生ではスーパーマーケット見学、4年生では水の授業、5年生では特別支援学校との交流会、高学年では、薬物や情報モラルについての出前授業等を行い、E S Dの視点を意識させた取組を推進している。

④ E S D委員会では、本年度から環境委員会をE S D委員会に変え、ビオトープの整備やメダカ・ヤゴ・ヌマエビの放流、E S Dに関するポスター作り、牛乳パックのリサイクル活動等を行っている。また、2学期には秋冬野菜を育てて、給食センターとのコラボ事業として給食に提供する大根づくりに取り組んでいる。

⑤ P T Aとの連携では、学年園の整備や落ち葉掃きの取組などのE S D活動を行っている。また、3学期からは、E S D委員会とのコラボ事業として、空き缶・牛乳パックのリサイクル活動を行っている。さらに家庭教育学級でも、E S Dについての講演を行ったり、演奏会を開き、1・2年生と一緒に親子で味わう体験活動を行ったりしている。

⑥ ホールスクールアプローチとしてのE S Dでは、ランドデザインにE S Dを盛り込んだり、伸栄小のE S DマークやE S Dの合言葉を決定し、校内に掲示したりしている。E S Dについての2回の全校集会も行い、全校でE S Dを推進している。



変容と今後に向けて

本校はE S D教育を推進して2年目である。この2年間で組織全体としてかなりE S Dの理解が深まっている。しかし、現在行われている校内の様々な活動は目に見えてE S Dが浸透しているものの、日々の授業においては、担任個々の意識に委ねられている。今後は「総合的な学習の時間」等の教育課程の見直しや、各教科の年間指導計画の中でE S D教育に位置づけられるものを、各教科部会や各学年で見直し、改善を図っていきたい。

学校教育目標

「かしこく やさしく たくましく」

1 学校教育目標とE S Dのつながり

本校の目指す学校像は「人のために 子どもも教職員も 笑顔で 尊敬し合い（愛） 共に学び合い（愛） 感謝し合う（愛）学校」である。校長の経営基本理念は「はじめに子どもありき」である。このことを受け、「主体的に学び、友達と協働し、豊かな学校生活をつくる児童の育成～特別活動を軸とした非認知能力の育成を目指して～」をテーマに研究を進めている。非認知能力には、自制心、忍耐力、レジリエンスなどの自分と向き合う力、意欲・向上心、自身・自尊感情、楽観性などの自分を高める力、コミュニケーション力、共感性、社交性・協調性などの他者とつながる力がある。これらの能力は、E S Dの7つの能力に包括させるものであると捉えている。

2 山口小学校E S Dの取組

山口小学校の近くには、狭山丘陵の間を西から東に流れる柳瀬川がある。水の便のよいこの場所は古くから人が住み、中世には山口氏という武士が館を構えていた。そして、「となりのトトロ」でおなじみのトトロの住む森としても自然豊かな景観を保っている。



また、埼玉西武ライオンズドームや西武遊園地が県境に位置しており、休日をはじめイベント等のある日は多くの人でにぎわう場所でもある。



そのような自然と大きな商業施設が融合した山口地区では、この2つをバランスよく取り入れながらE S Dの視点で取り組む必要があると考えた。

(1) 自然を生かしたE S D

5年生の総合的な学習の時間「環境を考える」で、「山口地域ふるさと創生」を進める会の方々と米作り体験を行っている。今年度から始まった取組なので6月の田植え体験と10月の稲刈り体験のみの活動となった。



4年生の総合的な学習の時間「福祉教育」で、6月に「山口地区包括センター」の方々と認知症について学んだ。実際に認知症の方と出会ったことを想定して対応の仕方について体験しながら学ぶことができた。



(2) 新たな環境を生かすE S D

1・2年生生活科「地域を知る」で埼玉西武ライオンズとコラボした地域の体験学習を行っている。昨年度は、5月にドームに招待いただき直接選手から帽子をいただいた。今年度は、2年生の地域探検で西武ドーム内を係の方に直接説明いただきながら体験活動を行った。



変容と今後に向けて

5年生米作り体験は今年度からの取組で、田植えと稲刈りのみの体験であった。年度末に教育計画を見直し、地域と関わりながら体験活動を行ってきたい。

4年生福祉学習の後、4年生の児童が倒れている高齢者を助けることがあった。学校の学習を実生活に生かすことができた。また、山口地区自治連合会長より感謝状が贈られた。

150周年をむかえ歴史と伝統、そして新たな文化を取り入れている山口小学校は、今後1・2年生の生活科・3～6年生の総合的な学習の時間でつながりのある教育計画にしていく。



学校教育目標

学び合う子 やさしく かしこく たくましく

1 学校教育目標とE S Dのつながり

本校では、「学び合う子」を育むために、「全教職員が経営参画の当事者意識と、南陵中学校区の小学校として北秋津小教職員の自覚と責任、誇りをもち、誠実に学び続け」ることを学校経営方針としている。教職員も児童も当事者意識を持って協働しながら、目の前の課題に進んで取り組む姿勢そのものがE S Dにつながっていくと考えている。

また、市と連携したE S D教育に取り組むことを掲げ、学校生活を構成しているあらゆる要素を持続可能性という視点から見直していこう日々取り組んでいる。

2 北秋津小学校E S Dの取組

(1)かみの山再生プロジェクト

本校の学区は雑木林や畑だった土地が区画整理され、住宅や商業施設に変わっていったが、かつてのような雑木林も残すべきという意見もあった。所沢市市街地整備課が主導して、再開発地域の一部にこの地域の植生から選定された樹木の苗を植え、何百年も持続する森をつくろうと立ち上げられたのが「かみの山再生プロジェクト」である。この植樹に低学年が参加した。植えて終わりではなく、北秋津小学校の自分たちで山の手入れをしようと、継続的に再生活動を行っていく予定である。



(2)銀杏プロジェクト

本校のシンボルツリーである2本のイチョウは、毎年多くの実をつける。これを加工・販売する活動が「銀杏プロジェクト」である。5年生が総合の授業の中で10月～11月に銀杏を拾い集め、地域の方の協力を受けながら商品化し、1袋100円で販売している。販売は授業参観・懇談会の時に特別ブースを設けたり、近隣の野菜販売所に並べてもらったりしながら行っている。持続可能な社会の実現のために収益を何に還元していくかも5年児童に考えさせていく予定である。



(3)委員会によるSDG sを意識した活動

環境委員会は節電・節水などのポスターを作成し、エネルギーの無駄使いにならないよう呼びかけを行っている。給食委員会は、フードロス無くすポスターを作成した。飼育委員会では、家庭での調理で出た野菜の切れ端を集め、ウサギのえさにしている。



(4)その他の当事者意識を高める体験活動

この他に、3年生はコミュニケーションの大切さをPAV L I C (パブリック) のワークショップを通じて体験した。4年生は車いす体験、視覚・聴覚を遮断する体験、高齢者体験などを体験したり、ヒッポファミリークラブによる国際交流体験も行ったりしている。5年生は助産師の方の特別授業、6年生は声優の方を招待してキャリア教育に関する特別授業を行っている。

変容と今後に向けて

児童が当事者意識を持てる活動を多くすることで、他者に対しての意識が変わり、助け合ったり、励まし合ったりする場面が増えてきたと感じる。本校の目指す児童像「自分を大切にし、友達も大切にする児童」にも迫れるようになった。様々な体験活動と普段の授業や教育活動とのつながりを意識した編成にしていけるよう、目的や意図を明確化していくことが今後の課題である。教職員、児童、地域など多くの人々を巻き込み、楽しみながら整理することで、持続可能な体験活動にしていきたいと考えている。

概 要	<p>令和6年11月20日に所沢市立北秋津小学校にて行われた研修会である。市内にE S Dを広めるために公開授業と参加者による協議、本会委員の所属校での紹介、E S D調査研究協議会の指導者である住田昌治先生の講演会で構成した。</p> <p>本年度は、「地域」とともにE S Dを推進することをねらい、参加者を市内教職員に加え、会場校である北秋津小学校の民生委員、C S委員も対象とした。</p>
実践内容	<p>1 研究授業</p> <p>みんなで話をつなげよう「そうだんにのってください」の学習では、聞き方のポイントや話す時のポイントを再確認し、手本となる姿を見せながら指導をした。E S Dを実践するための概念として、3つの手立て「①つながりへの気づき」、「②永続的な問い」、「③深いふりかえり」を提唱し展開した。本授業ではその中の「③深い振り返り」に焦点を当てた。相談する人、相談を受ける人、相談を客観的に聞く人の三役を用いて、話をつなげようとしているかを評価基準とした。相談の難しさ、聞き方の良さ、話をつなげるときの困難さから考えたことなどを振り返りとした。振り返りでは、自分の話の聞き方を振り返りどうしたらよいか考えることができた。また相談者を変えると、新しい考えが得られることや国語の学習がより身近に感じられたこと、話を真剣に聞いてくれることの嬉しさなどに気づくことができた。今後の話の聞き方を考える児童が多くいた。</p> <p>2 本会委員の所属校でのE S D実践の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみの山再生プロジェクト（低学年での植樹） ・銀杏プロジェクト ・福祉の学習（車いす体験、点字体験、白杖体験） ・学校の畑を活用し植物栽培 ・国際理解（留学経験者の話） ・SDG s 推進ポスターの掲示（SDG s 理解のための本紹介、身近なところでの理解） <p>3 参加者による協議</p> <p>①「身近なE S Dの発見」、②「授業でのE S D」、③「すぐに取り組めるE S Dの確認」の3点を協議した。市内教職員に加え、会場校である北秋津小学校の民生委員、C S委員の方々との協議を行ったため、教育以外での発見が多くあった。</p> <p>①：職業体験で人付き合いや未来の自分について考える。 他人の良い所に気づき伝え、認め合う。（自己肯定感の向上） 防犯灯の設置</p> <p>②：道徳教育の推進（心の成長、家庭への周知） 町内会の行事に子供たちも参加</p> <p>③：通学班でルールを守って登校する。 子供のつぶやきにより傾聴する。（ともにワクワクを共感し共有） 家族での会話を増やす（相談できる関係づくり）</p> <p>4 指導者による講演</p> <p>E S Dの理解を深めるために身近な事例を用いて紹介があった。これからも世界が持続可能であり続けるためのE S Dを推進するためには「減らす」ことに焦点を当てるわけではない。様々な人とつながり、ワクワクやドキドキを共有しながら、それぞれがこれからの社会の創り手になっていこうとお話しされていた。</p>
成果と課題	<p>○地域の方と協議を行えたため、教員目線だけではなくあらゆる視点から考えることができ新たな発見が多くあった。</p> <p>○子供達でもわかりやすい教材選定をし、「書く力」「聞く力」の育成が図れた。</p> <p>○E S Dを国語の学習でも行えることを示したことで、参加者のE S Dに対する考え方が広がった。</p> <p>△教員や地域の方だけでなく、児童生徒が協議に参加することで、E S Dの推進がさらに進むと考えられる。</p> <p>△E S Dカレンダーを作成し、どの教科にもE S Dが当てはまるよう示す。</p>

概 要

令和6年11月～12月中の約1カ月間、市内管理職、県費負担教職員、児童生徒を対象に、Google フォームによるアンケート調査を行った。調査目的は、E S D（持続可能な開発のための教育）の意義や概念を学校に浸透させる具体的な取組について調査し、その普及に向けた具体的な提言を行うためにE S Dに関する意識等の状況を正確に把握することである。

アンケート結果

1 管理職

管理職を対象としてアンケートを実施した。「E S Dについてグランドデザインに記載していますか。」に対して、「はい」が36.4%「いいえ」が60.6%であった。

また、「はい」と答えた管理職を対象に「グランドデザインにはどのように記載してありますか？」に対する結果は、図2のとおりであった。

「具体的な目標として記載している」と回答した管理職が一番多く46.2%、続いて「E S Dを記載している」という結果であった。

さらに、「年間指導計画にE S Dに関連した記載がありますか？」の質問に対しては、「はい」を含め、関連項目のあるものについて72.7%であった。

【E S Dについてグランドデザインに記載していますか？】（図1）



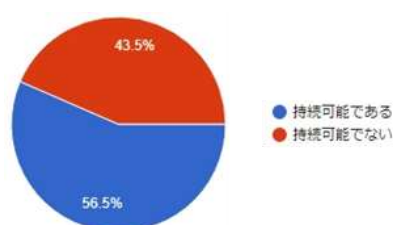
【グランドデザインにはどのように記載してありますか？】（図2）



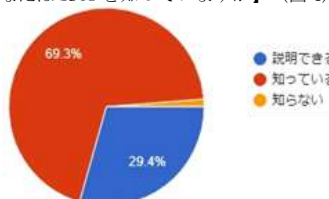
2 教職員

教職員を対象としてアンケートを実施した。「あなたは現在、世界が「持続可能」であると思いますか。」に対して、「持続可能である」が56.5%であった。昨年度教員経験年数9年目までを対象とした同様のアンケート結果と比較すると11.9ポイント高い結果となった。また、「持続可能でない」と答えた理由として「資源の枯渇」、「環境問題」、「世界の紛争」などが挙げられた。

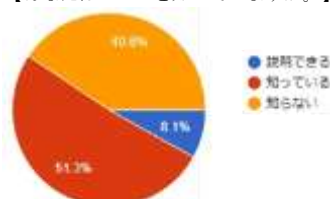
【あなたは現在、世界が「持続可能」であると思いますか？】（図3）



【あなたはSDGsを知っていますか？】（図4）



【あなたはE S Dを知っていますか？】（図5）

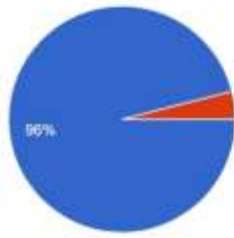


「あなたは「SDGs」を知っていますか」に対して、「説明できる」、「知っている」が98.8%であった。「あなたはE S Dを知っていますか」に対して、「説明できる」、「知っている」が59.9%であった。

3 児童生徒（小学6年生・中学3年生）

児童生徒を対象としてアンケートを実施した。「SDGsを知っていますか」に対して、「知っている」が96%であった。また、「SDGsの17の目標のうち知っている、興味のあるものは何ですか ※いくつでも」に対して、「海の豊かさを守ろう」、「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公正をすべての人に」が50%より高い結果となった。

【SDGsを知っていますか。】 (図6)

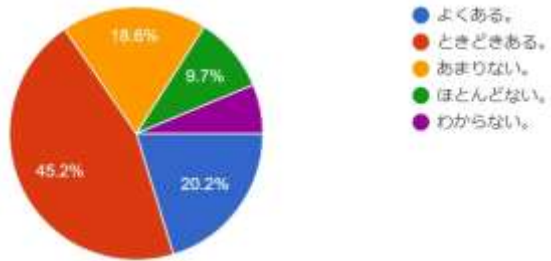


【SDGsの17の目標(もくひょう)のうち知(し)っている



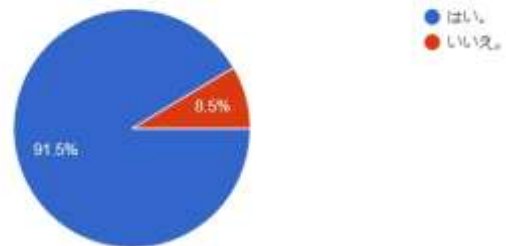
「地球の未来が心配になることは」に対して、「よくある」、「ときどきある」が65.4%という結果であった。「どのようなことが心配か」という質問に対して地球温暖化、「自然災害」、「ごみ問題」の回答が多くあった。

【地球の未来が心配になることは?】 (図8)



「環境のために取り組んでいることはありますか」に対して、「はい」が91.5%という結果であった。取組の内容は、「ごみのポイ捨てをしない」が一番多く、続いて「ごみを分別する」、「水道を出しっぱなしにしない」、「買い物はエコバックを使う」と日常の生活場面でできることを実践している結果となった。

【環境のために取り組んでいることはありますか】 (図9)



成果と課題 (考察・分析から)

1 管理職アンケートの結果から

○「グランドデザインにはどのように記載してありますか。」に対して年間指導計画にESDに関連した記載がある学校が72.7%であることから、具体的に授業の中で意識した教育活動が行われていると考えられる。

△「ESDについてグランドデザインに記載していますか。」に対して、「はい」が36.4%「いいえ」が60.6%であったことから、半数以上の学校で管理職からESDに対する取組が広がっていないことが考えられる。

2 教職員アンケートの結果から

○今年度は、すべての教職員を対象としてアンケートを行った。「あなたは 現在、世界が「持続可能」であると思いますか。」に対して、昨年度教員経験年数9年目までを対象とした同様のアンケート結果と比較すると11.9ポイント高い結果となった。このことから、学校でESDを意識した教育計画が円滑に実施されていることが1つの要因として考えられる。

△ESDを「説明できる」、「知っている」の割合が59.9%であることから、ESD調査研究協議会として、ESDについて各学校に広げられる提案を検討していく必要がある。

3 児童生徒アンケート結果から

○SDGsについての認知が高く「自然環境」や「公正・平等」に対する興味が高い。さらに、「環境問題」については、身近な生活場面から進んで取り組んでいる様子が見え、自らの課題として主体的に考えられる児童が多く育っているという側面がある。

△児童の興味関心が高いことから、今後教育課程にどのように位置づけていくかESD調査研究協議会で好事例を提示し、市内に広げていく必要がある。

所沢市立教育センター

〒359-1118 埼玉県所沢市けやき台 2-44-2

TEL:04-2923-2396 Fax : 04-2923-2395

E-mail : edc@tokorozawa-stm.ed.jp

<https://edc-tokorozawa.edumap.jp/>